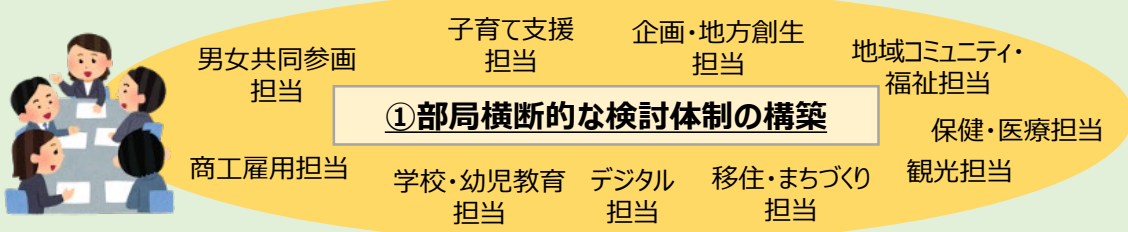
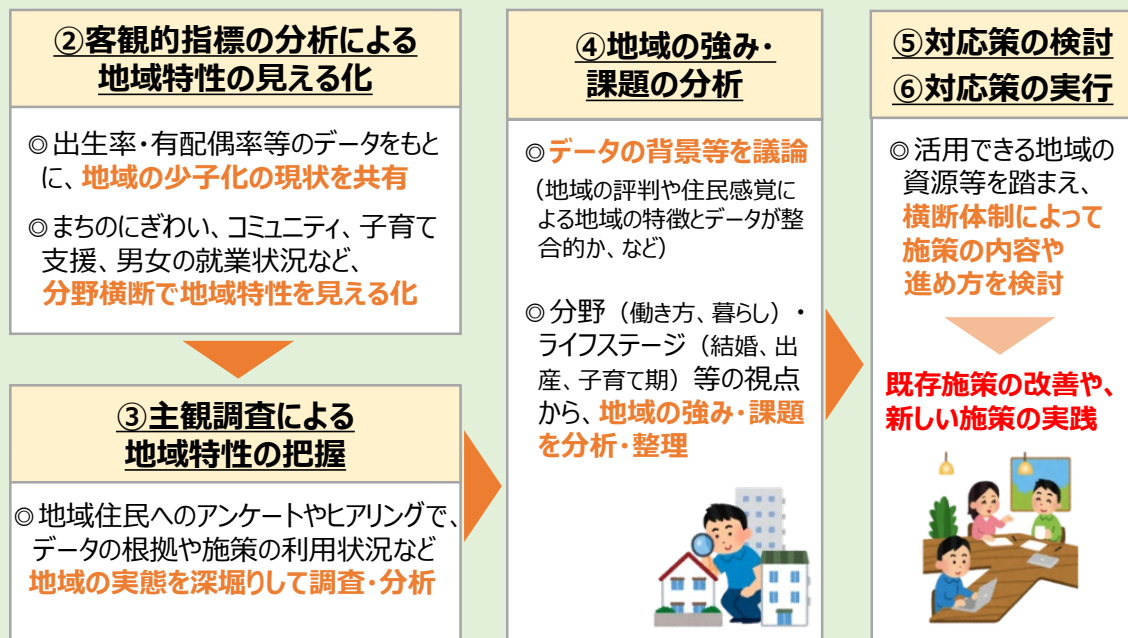


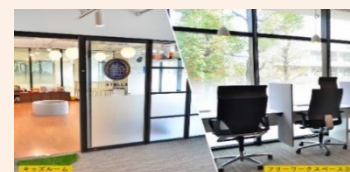
- 少子化の問題は、出会いの機会の減少や経済的な不安定さ、仕事と子育ての両立など、様々な要因が複雑に絡み合っており、それらの状況は地域によって異なるため、実効性のある少子化対策を進めるためには、地域の分野横断的な状況や特徴を分析し、**地域の実情に応じた少子化対策（＝「地域アプローチ」による少子化対策）を推進していくことが重要。**
 - そのため、横断的な体制づくりからデータの分析・ヒアリング等による地域特性の見える化を通じた具体的な対応策の検討等の**一連のプロセスをまとめた「少子化対策地域評価ツール」等の資料を整備。**（R2.3策定、R3.4・R4.3・R5.3改訂）
- ▶ 各自治体における地域評価ツール等を活用した**地域の実情に応じた効果的な少子化対策の取組の推進**を支援している。

「少子化対策地域評価ツール」を活用して、分野横断・EBPMによる検討



地域の実情に応じた取組を実践

- 地域コミュニティを巻き込んだ子育ての支え合い
- 男女ともに子育てと両立できる魅力的な働き方
- 職・住・育が近接した暮らしやすいまちづくり など



都市近郊のニュータウンにて、職住近接の coworking ステーションを設け、子育て世代が通勤負担なく働くことができるまちづくり



コミュニティの中で柔軟に子育て支援を行う、インフォーマルな支援体制づくり

取組実施には、国の交付金・補助制度なども活用可能

地域少子化対策重点推進交付金

デジタル田園都市国家構想交付金

民間との連携や、都道府県による広域支援も活用

国による情報面の支援

- 基礎データの提供や、分析への助言
- 取組事例の横展開などの情報発信 等

